介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

おけとで暮らし続け

少子高齢化が進む日本。置戸町の高齢化率は、本年１月現在の住民基本台帳人口で42.2%。道内179市町村のうち、20番目に高い数字です。団塊の世代が75歳となる平成37年には、病気などにより、介護を必要とするかたが増加する可能性があります。そのような超高齢化社会で、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けていくことができる社会を目指して、高齢者自身や地域全体で取り組むことが必要です。

町では、「高齢者保健福祉計画・第７期介護保険事業計画」を検討するために、町内にお住まいの65歳以上で無作為抽出した650人に対し、保健福祉施策や介護保険サービスに関する地域課題やニーズを把握するため、調査を行いました。

調査表は６月に郵送され、467人から回答がありました。回収率は71.9%で、本人が記入したものが84.8%、男性が45.6%、女性が54.4%となっています。

家族構成は夫婦２人暮らしが最多

家族構成、介護・介助の状況の設問のなかで、夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）が38.1%と最も多く、次に一人暮らしが25.5%でした。

また、介護・介助は必要ないと回答する方は79.9%でした。しかし、何らかの理由で介護・介助が必要になった時の老老介護や一人暮らしのかたの暮らしをどう支えるかは課題です。

他者とのつながり、交流を求める

外出を控えているかとの問いに、はいが24.4%、いいえが74.1%でした。外出を控えているかたの理由は、足腰の痛みが最も多く60.5%でした。次に交通手段がないが26.3%、その他が17.5%、病気が14%、外での楽しみがないが13.2%でした。

外出するときの移動手段は、自動車（自分で運転）が52.9%で最も多く、次に徒歩が36%、自動車（人に乗せてもらう）が30.4%でした。

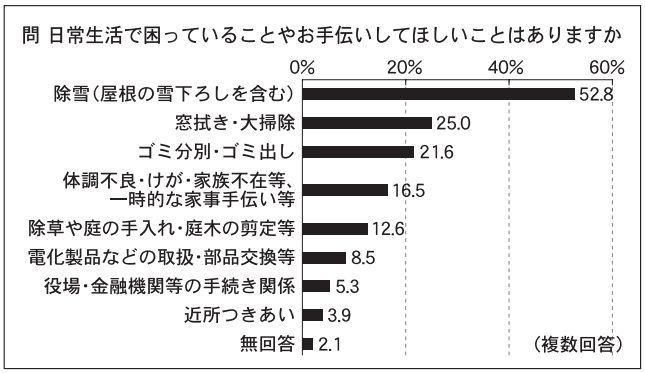
高齢に伴い、運転が難しくなった場合に、外出する機会が減少することが考えられます。

外出で行きたい場所としては、友人宅が19.3%、地域の集まりが14.9%でした。歩いて行ける距離に集える場所があることは他者との交流を通じた介護予防につながることが期待されます。

除雪やゴミ出し、日常的な手助けを

日常生活で困っていることやお手伝いしてほしいことがあると答えたかたが、93.4%と大多数でした。内容は、除雪が52.8%、窓拭き・大掃除が25%、ゴミ分別・ゴミ出しが21.6%でした。

家族や友人以外で困り事の相談やお手伝いしてくれる人は、地域福祉センター・役場が32.1%と最も多く、自治会・町内会・老人クラブが19.5%、そのような人はいないと答えたかたも23.6%と少なくありませんでした。よく会う友人・知人は近所・地域の人が63.4%で最も多い結果となっています。日常的な手助けを求める声は多く、近所や地域のつながりが強いこともわかります。



地域のつながりを大切に

町では、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らしていく体制づくりを目指しています。

もともとの地域のつながりを活かし、支援を求めているかたへ、できることからお手伝いする「互助」的活動の育成やその活動を支えること、ニーズと供給を結びつける工夫が求められています。

今回の調査では、70%を超えるご回答をいただき、ご協力に深く感謝申し上げます。いただきましたご回答やご意見をもとに、今後、協議していきますので、よろしくお願いします。

なお、調査結果は町のホームページに掲載しております。ご希望の場合は、地域福祉センターで配布もできます。みなさんのご意見・ご感想などお気軽にお寄せください。